PRESS RELEASE

愛媛大学
EHIME UNIVERSITY

平成２８年　２月　９日
愛　　媛　　大　　学

パテイン大学と愛媛大学が学術交流協定を締結
（締結式を開催）

このたび，ミャンマー国のパテイン大学と愛媛大学は，グローバル化推進のための取組みとして，新たに学術交流協定を結ぶこととなりました。
愛媛大学では，国の留学生 30 万人計画に対応し，海外の大学との学術交流協定の促進や留学生の就職支援体制の構築，積極的な情報発信など様々な取組みを進めています。2015 年 11 月 1 日現在，愛媛大学には留学生数 336 人が在籍しています。
当日は，パテイン大学から Nyunt Phay（ニュン・フェイ）学長，THAN THAN MYINT（タン・タン・ミン）科学・環境科学研究科化学学科長が参加します。
今回の協定により，愛媛大学では世界 32 の国，地域の大学等と 118 協定を結ぶこととなります。

つきましては，地域へ広く周知いただきますとともに，取材くださいますようお願いいたします。

記

日　時：平成 28 年 2 月 16 日（火）17 時 30 分～
場　所：愛媛大学本部第 2 会議室（5 階）

参加者：	パテイン大学	学　長	ニュン・フェイ Nyunt Phay
		科学・環境科学研究科化学学科長	タン・タン・ミン THAN THAN MYINT
	愛媛大学	学　長	大橋裕一
		副学長・国際連携推進機構長	安川正貴
		学長特別補佐･国際連携推進機構副機構長	大上博基

駐車場：有（車で来学の場合，本部の駐車場をご利用ください）

本件に関する問い合わせ先
担当部署　　国際連携課総務企画チーム
担当者名　　十河
TEL：089-927-9162
Mail：kokugaku@stu.ehime-u.ac.jp

※送付資料 5 枚（本紙を含む）

2016. 1. 18 現在

愛媛大学とパテイン大学との学術交流協定締結式開催要領

１．日　時　２０１６年2月１６日（火）１７時３０分～

２．場　所　愛媛大学本部第２会議室（５階）

３．出席者　　※敬称略

【パテイン大学】

学　長　　ニュン・フェイ Nyunt Phay

【愛媛大学】

学　長　　おおはし ゆういち 大橋　裕一

陪席者

【パテイン大学】

科学・環境科学研究科化学学科長　　タン・タン・ミン THAN THAN MYINT

ニュン学長の奥様　　ナン・ナン・モー NAN NAN MOE

【愛媛大学】

副学長・国際連携推進機構長　　やすかわ まさき 安川　正貴

国際連携推進機構副機構長　　おおうえ ひろき 大上　博基

国際連携支援部長　　まえかわ ゆきえ 前川　幸枝

【愛媛県】　関係者（交渉中）

４．式次第

進行：山内国際連携課長

（１）開式の辞

（２）出席者及び陪席者紹介

（３）協定書に署名

（４）握手・記念撮影

（５）大橋学長挨拶

（６）Nyunt 学長挨拶

（７）閉式の辞

～参考～

学長招宴　場所　大和屋本店

日時　２月１６日（火）１８時００分～２０時００分

参加者　パテイン大学（３名）ニュン学長，タン学科長，ナン夫人

愛媛大学　　（５名）大橋学長，安川副学長，大上副機構長，前川部長，山内課長

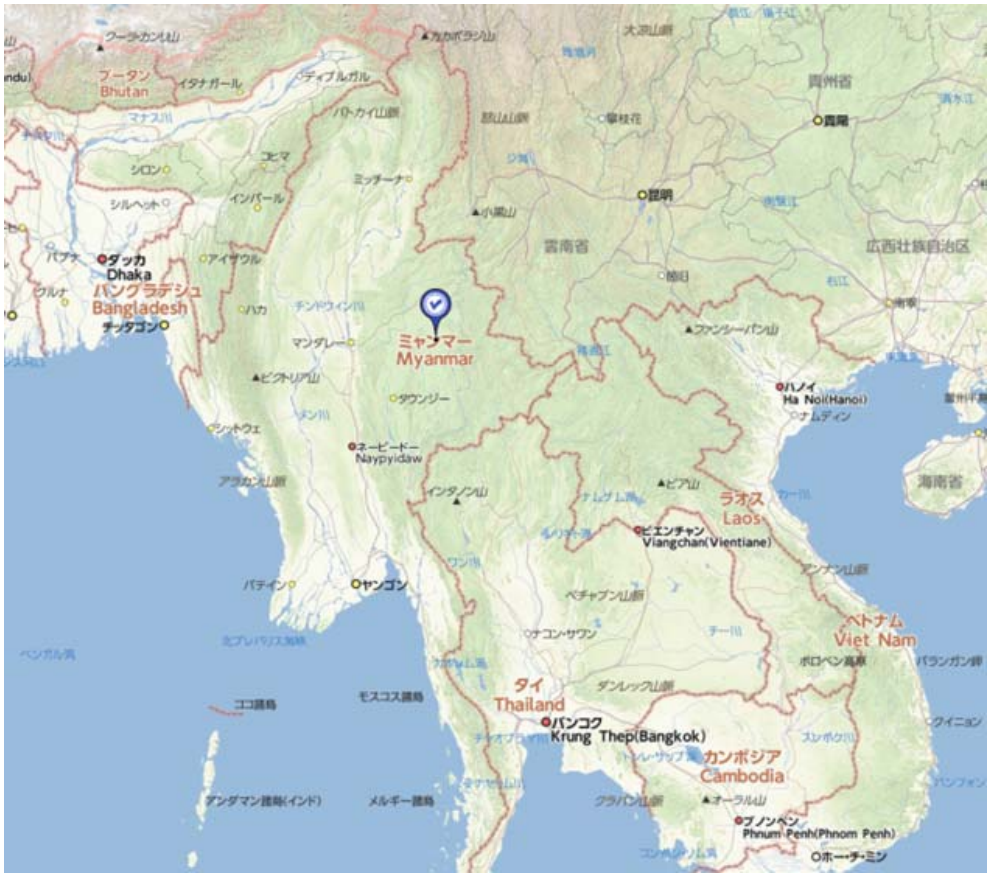
パテイン大学の概要等について

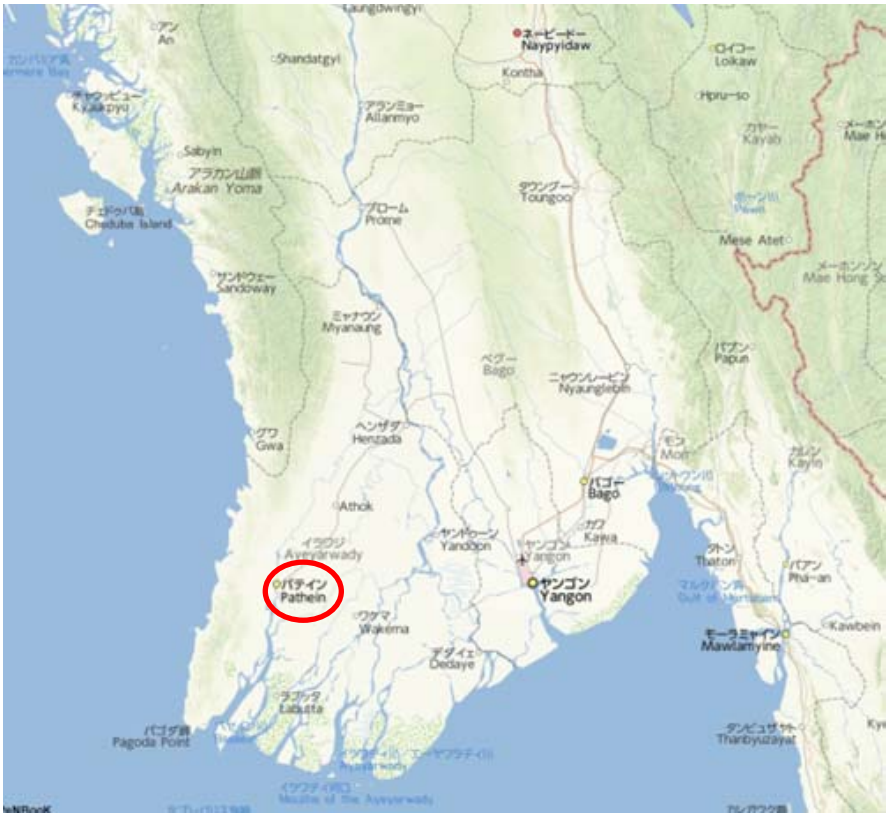
1　パテイン大学の概要

大学名（国名）:　パテイン大学 Pathein University
（ミャンマー連邦共和国）
所在地・TEL 等：　Pathein Ayeyarwady Region, The Republic of the Union of Myanmar
TEL : +95-42-24117 (ニュン学長)
学長　：　Prof. Nyunt Phay　（ニュン・フェイ教授）
設置形態　：　■国立　□州立　□省立　□私立　□その他（　　）
学部名　：　社会科学，理学，法学
大学院名　：　社会科学，農学・海洋学，生命科学技術，理学・環境科学，法学
学生数　：　学部学生 5636 人，遠隔教育学生 23949 人，大学院生約 367 人
教職員数　：　385 人（教員），285 人（職員）
沿革・特色等　：

パテイン大学は, 1958 年 7 月に Pathein College として設立され, 1981 年 9 月に Pathein Degree College となり，1996 年 8 月にパテイン大学へと改組された．エーヤワディ地方域パテイン郡パテイン市は，旧首都ヤンゴンの約 200km 西方にある．キャンパスはパテイン市の中央部にあり，面積は 123.6 ha である．

一般にミャンマーの総合大学は，社会科学，理学，法学といった基礎学問分野からなりパテイン大学も同様であるが，パテイン大学大学院はミャンマーの総合大学では珍しく，農学・海洋学研究科を持っている．大学から約 30 km 西方にある西海岸には，海洋科学教育センター (11.2 ha)とマングローブ・プランテーション (730.5 ha)があり，研究教育の拠点として活用されている．





２　交流実績及び交流協定締結に至った経緯

これまでに 9 名のミャンマーからの留学生が，愛媛大学教育学部，農学部，理工学研究科，医学系研究科に在籍し卒業・修了した．しかし，ミャンマーの大学とはこれまでに学術交流協定がなく，留学生の受け入れをはじめとする学術交流は必ずしも積極的ではなかった．一方，2007 年以降，政治体制の改革が始まり民主化が進むにつれて，各国の企業がミャンマーに進出し始めるとともに，欧米，中国，タイ，シンガポールなどの大学がミャンマーの大学との学術交流を加速し始めた．この時期に，パテイン大学をはじめとする一部の大学は，日本の大学との連携を積極的に開始している．現在，ミャンマーでは大学体制の変革が求められており，国際化の一端として大統領奨学金による留学促進を展開し始めた状況にあり，基本的にはアメリカ志向優位の世界的な人材育成の競争が激化しつつある．

このような状況下で，日本でも戦略的な留学生獲得をめざし，文部科学省は受託事業として，岡山大学と国立六大学国際連携機構が中心となる「ミャンマー留学コーディネーター配置事業」を展開している．その基盤の上で岡山大学を中心とする「ミャンマー人材育成支援のための産官学連携準備会」（愛媛大学も 2015 年 12 月から委員として参加）は，様々な機関の垣根を越えたオールジャパンの体制によるミャンマーにおける人材育成を目指しているところである．また，愛媛県は，県内の企業によるミャンマーへの事業展開を推進するため，愛媛大学によるミャンマーの人材育成を切望しており，在ミャンマー日本国大使館は愛媛大学による学術交流の推進に多大な期待を寄せている．

以上のようなミャンマーとの学術交流に関する状況の上で，学長特別補佐の大上博基教授は, 2015 年 11 月にパテイン大学 Nyunt Phay 学長と学術交流協定に関する打合せを開始した．パテイン大学との連携に着手した理由は，大上博基教授が専門とする農学分野の大学院研究科がある（ミャンマーの総合大学ではパテイン大学だけ）ことと，Nyunt Phay 学長が北海道

大学で博士号を取得し極めて親日的だからである．以下，交流実績と経緯をまとめる．

2015 年 11 月　　パテイン大学・Nyunt Phay 学長へ，愛媛大学・大上博基学長特別補佐から，共同研究と大学院生の交流の可能性について打診を行った．大上博基教授は，Nyunt Phay 学長と，研究成果に関する情報交換，共同研究および学術交流協定に関する打合せを開始した．

2015 年 12 月 6 – 7 日　大上博基教授がパテイン大学を訪問し，Nyunt Phay 学長と共同研究および学術交流に関する意見交換を行った．この際にあらためて，パテイン大学側から，愛媛大学との学術交流に対する強い熱意と期待が表明された．また，愛媛大学への留学候補者の選抜方法について打ち合わせを行うとともに，学内研究施設の視察を行った．

2015 年 12 月 8 日　大上博基教授が在ミャンマー日本国大使館を訪問し，樋口建史大使にパテイン大学との協議について報告した．樋口建史大使からは，愛媛大学とパテイン大学の学術交流に対し，強い期待が表明された．また，樋口建史大使から，留学生への奨学金に関する情報提供を受けた．

2015 年 12 月　　大上博基教授がパテイン大学・Nyunt Phay 学長と学術交流協定（案）について意見交換を行い，農学部，工学部および当該研究科を中心とする愛媛大学側と，農学・海洋学，理学・環境科学研究科を中心とするパテイン大学側との間で，大学間協定を締結するこという同意に至った．

３　交流協定締結の効果及び将来展望等

ミャンマーは，国民の約 6 割が農業に従事する農業大国であり，コメの生産量が世界第 8 位であることはよく知られているが収量は 4 t/ha 程度とあまり高くない．一方で，天然ガスや貴金属などの地下資源が豊富であるため，貧富の差は非常に大きい．２で述べたように，民主化が進み，中長期的には海外企業の進出と外資導入を通じて工業製品輸出国へと変化していくことも予想されるが，インフラ整備の未整備，中でも電力の安定的供給に大きな問題があるため，本格的な製造業分野の発展にはまだ時間を要すると考えられている．このような状況において，今まさに始まった「過渡期」のミャンマーを牽引するのは，高度な人材育成による農業，工業，経済などの分野の発展であると考えられる．すなわち，現在のミャンマーの発展には，学術交流による人材育成が最大の優先課題であると言ってよい．

水田農業をはじめとする農業生産の効率化と用水の高度利用化，建設土木分野の近代化，工業化の進展に伴って予想される環境問題への対応など，今後のミャンマーにとって基礎的かつ専門的な知識と技術を習得する人材の育成は不可欠である．愛媛大学がこれまでに蓄積してきた食料・生命・環境，建設土木等に関する学術的知見が，これらの問題の改善と解決に大きく貢献する可能性は極めて高い．

パテイン大学は，日本の大学との学術交流に熱心であり，分野を問わず，学生だけでなく学位取得を希望する若い教員が日本の大学への留学を強く希望している．したがって，大学間の学術交流協定を締結することにより，とくに修士課程と博士課程の優秀な留学生の受入れを促進すると期待できる．